

## 学習端末を活用した不登校未然防止対策事業成果と課題について（令和4～5年度実証）

### 1. 事業の目的

G I G A スクール構想で整備された児童生徒端末から日々入力される各種教育データを効果的に活用することで、児童生徒の心情の変化や自己肯定感等を把握するとともに、早期に児童生徒理解に基づく適切な支援を行い、不登校の未然防止につなげるための効果測定を行い、教育の質的向上に向けた今後の学校教育環境整備に資するモデルを構築する。

### 2. 事業内容

学習プラットフォームのアプリの実証研究及び活用状況の記録

実証アプリ	内 容
きもちメーター	児童生徒が毎日の健康状態を1人1台端末から送信することで、日々の児童生徒の心の様子や変化を把握する。
A i G R O W (アイグロウ) (小学校4年生以上対象)	年に2回程度非認知能力アンケートにより児童生徒の気質と思考力・表現力・判断力等の行動特性を測定・可視化したものを、児童生徒理解、授業改善、学校運営に活用する。

(実証校数)

R4：3校（小2、中1）

R5：14校（小9、中2、高2、特1）

R6：14校（小9、中1、義1、高2、特1）

### 3. 健康観察アプリ（R4.10～R6.10） 非認知能力アンケート（R5.10～R6.10）の成果と課題

#### (成果)

- ・教師がこれまでの見取りに加えて、健康観察アプリを用いることで、多くの目での見取りが可能となり、これまで気づけなかった声に対応することができた。
- ・相談ボタンの有効性は教師、児童生徒ともに感じており、相談までのハードルが下がることでこれまで、子どもたちが自分の中にとどめていた声を表に出すことができた。
- ・健康観察アプリについて、児童生徒の体調や心の変化に気づいたり、相談支援につなげたりすることで、児童生徒への早期の支援につながるツールの1つとして活用することができた。
- ・中学校区として、育てたい児童生徒の姿を意識して教育活動に取り組むことで、非認知能力の向上が見られた。

#### (課題)

- ・健康観察アプリの内容について、心情を答えたくない児童生徒への配慮や相談ボタンが無い学校における対応方法、不登校の未然防止につながる内容に改善する必要がある。
- ・健康観察アプリと非認知能力アンケートや各種アンケート等とのクロス集計等、不登校の未然防止につながるデータを精査し、一元化して可視化できるようにする必要がある。
- ・健康観察の手間を省いたり、教育相談などで活用しやすいデータの出力方法を検討したりする必要がある。

### 4. きもちメーターアンケート調査実施時期

令和5年10月、令和6年4月

### 5. きもちメーターアンケート実施対象

令和4年度からきもちメーターを継続している実証校（小学校2校、中学校1校）の児童生徒、教職員

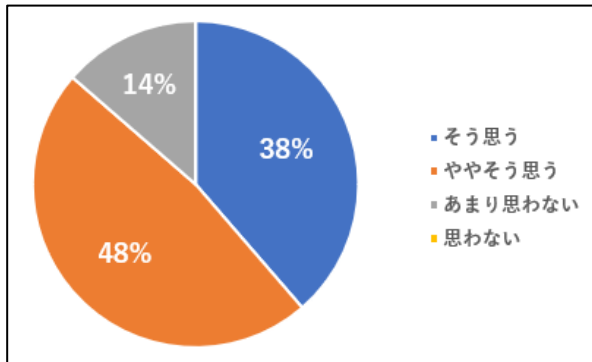
回答数：児童生徒 R5：331人、R6：227人

教職員 R5：44人、R6：32人

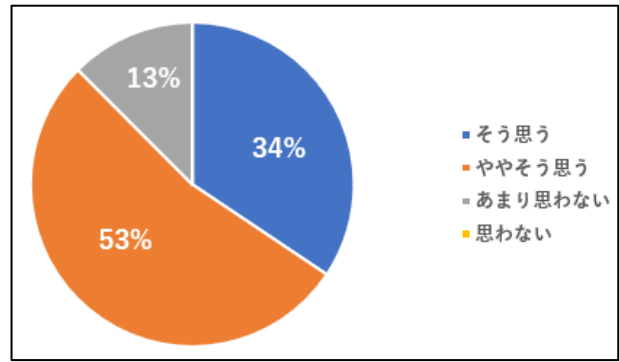
## 6. 調査結果

### 【教職員】

きもちメーターは児童生徒の状況を把握することに役立ちますか？



(R 5. 1 0)



(R 6. 4)

(回答した理由)

- ・口頭で答える健康観察では言いにくい内容も答えやすい (R 5. 1 0)
- ・天気で気持ちを表すので、低学年でも取り組める (R 5. 1 0)
- ・データを共有することで、気づきが増える (R 5. 1 0)
- ・いつでもタブレットで把握できる (R 5. 1 0)
- ・健康観察よりも詳しく健康状態が書かれていることがある (R 6. 4)
- ・児童が意外な悩みを持っていたことに気付くことができたから (R 6. 4)
- ・子どもの様子がわかり面談に役立てることができたが、朝遅く登校する児童がおり全員が答えることが難しかった (R 6. 4)
- ・日々の気持ちの変化が追える (R 6. 4)
- △あまり見る時間が取れない (R 6. 4)

(感想)

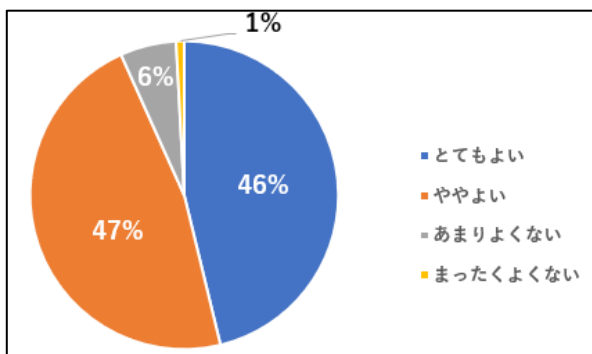
- ・あまり自分の気持ちを表現しない児童の回答をみて、その子の気持ちが感じられる (R 5. 1 0)
- ・心配な回答をした児童にすぐにカウンセリングができた (R 5. 1 0)
- ・気分がよくない生徒に、教員から声をかけたところ生徒間のトラブルが発生しており、早期に対応できた (R 5. 1 0)
- ・相談ボタンのおかげで、生徒の困りごとがすぐわかった (R 5. 1 0)

(改善してほしい点)

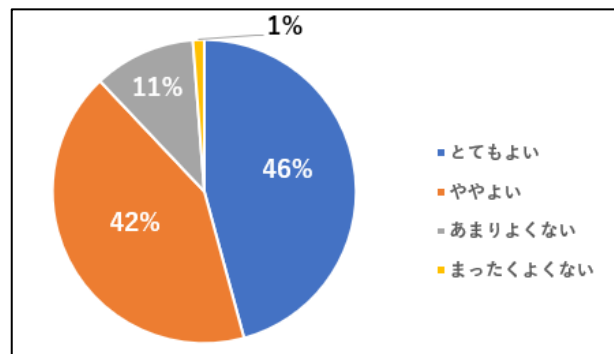
- ・健康観察ときもちメーターで朝の時間の確保が厳しくなっている (R 6. 4)
- ・教員の管理画面に入るまでが手間に感じる (R 6. 4)
- ・生徒が入力してからの反映を早くみられるようにしてほしい。生徒が相談ボタンを押していても気が付かないくらい反映が遅いため、対応ができない場合がある (R 6. 4)

### 【児童・生徒】

質問1：きもちメーターで、体調や気持ちをこたえることについてどう思いますか（一番気持ちに近いものを選んでください）  
（小学校）



(R 5. 1 0)



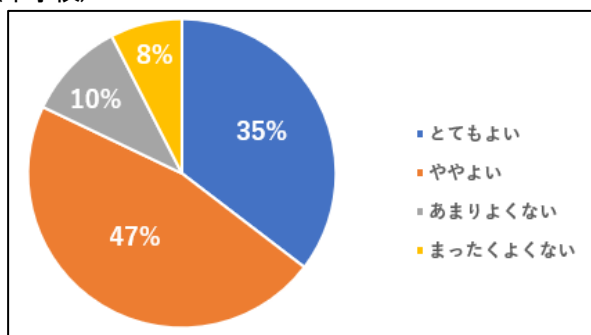
(R 6. 4)

(回答した理由)

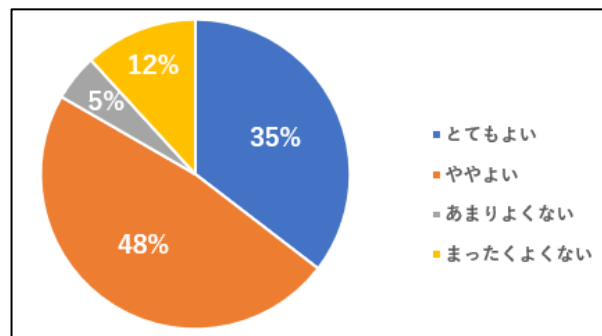
- ・気分が悪いときに知ってくれるから安心する (R 5. 1 0)

- ・自分の気持ちを先生に言いにくいときでも気づいてもらえる (R 5. 1 0)
  - ・体調が悪いときにどこが大変か打てるから (R 6. 4)
  - ・簡単に答えることができる (質問が少ない) (R 6. 4)
  - ・朝の会で言うことが恥ずかしい人は、打てば先生に知らえてもらえるから (人にみられないから) (R 6. 4)
- △毎日気分や気持ちを教えることが少しいやだ (R 6. 4)
- △健康観察のできるから (R 6. 4)

(中学校)



(R 5. 1 0)



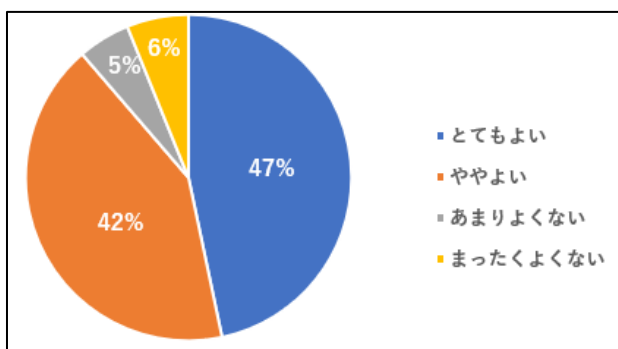
(R 6. 4)

(回答した理由)

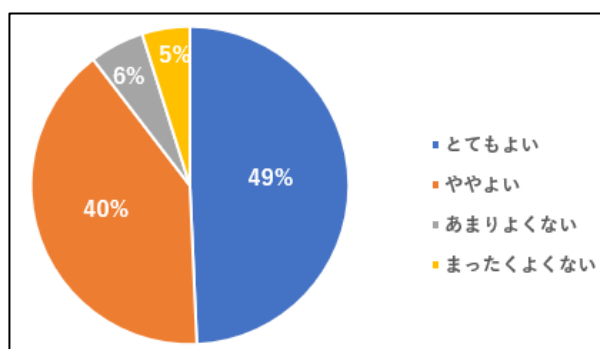
- ・先生に伝わると、気遣ってくれるから (R 5. 1 0)
  - ・自分の気持ちを表せるから (R 5. 1 0)
  - ・気分を知ってもらえるから (R 5. 1 0)
  - ・先生は気分を知ることですそれなりの対応してくれるから (R 5. 1 0)
  - ・健康観察をしないで、1人でできるから (R 6. 4)
  - ・答えやすいし、効率が良い (R 6. 4)
- △気分なんて簡単に変わるから (R 5. 1 0)
- △めんどくさい、口で言えばよい (R 6. 4)

(中学校のみ)

質問5：先生に何か相談したいときに押せる「相談ボタン」がきもちメーターに付いています。「相談ボタン」があることについてどう思いますか (一番気持ちに近いものを選んでください)



(R 5. 1 0)



(R 6. 4)

(回答した理由)

- ・みんなの前では言いにくいときがあるから (R 5. 1 0)
  - ・周りのことを心配せずに相談できるから (R 5. 1 0)
  - ・気軽に相談できる (R 6. 4)
  - ・相談したいけど、直接できないときがあると嬉しい (R 6. 4)
  - ・先生に相談できるのはよいが、相談できる先生が選べるとよい (R 6. 4)
- △口で伝えればよい (R 6. 4)
- △相談することがないから (R 6. 4)

## 7. 【実証中学校区で健康観察アプリ、非認知能力アンケートに取り組んだ結果】

不登校の出現率（小・中・義務教育学校）

R4 と R5 の比較

	R4 年度	R5 年度	比較
中学校区で取り組んだモデル校 (%)	3.87	4.12	+0.25
県平均 (%)	3.19	3.87	+0.68

0.43 ポイント出現率が低い

R5.8 時点と R6.8 時点の比較

	R5.8 時点	R6.8 時点	比較
中学校区で取り組んだモデル校 (%)	2.48	1.94	-0.54
県平均 (%)	1.80	1.92	+0.12

0.66 ポイント出現率が低い

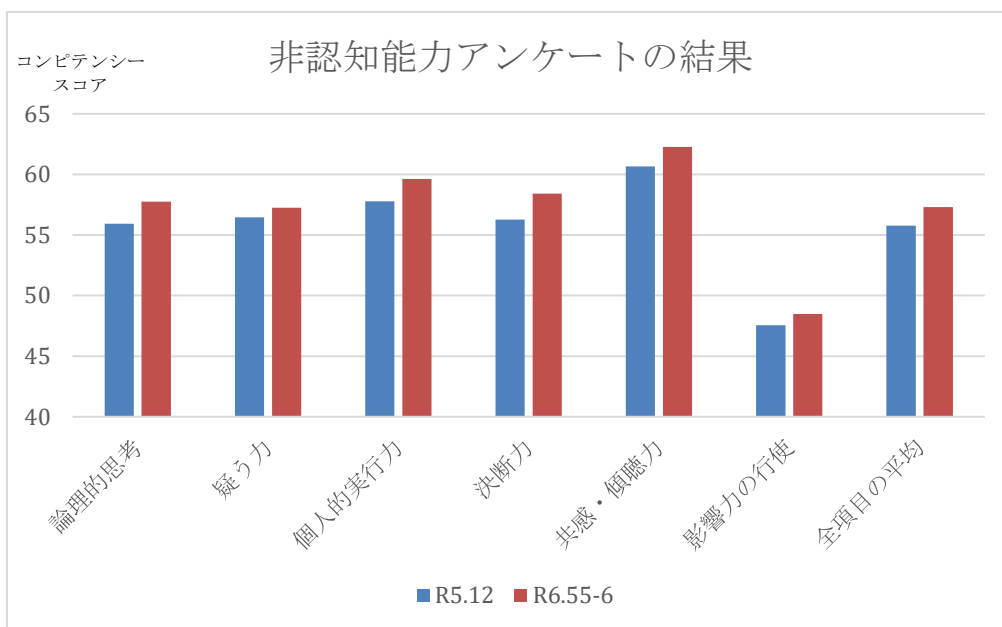
不登校の新規出現率（小・中・義務教育学校）

R4 と R5 の比較

	R4 年度	R5 年度	比較
中学校区で取り組んだモデル校 (%)	3.40	3.48	+0.08
県平均 (%)	1.38	1.84	+0.46

0.38 ポイント出現率が低い

非認知能力アンケートの結果比較（R5.12 と R6.5-6）



## 8. 今後の対応

令和6年度で健康観察アプリ（きもちメーター）が3年、非認知能力アンケート（A i G R O W）が2年の実証研究となることから、2つのアプリを活用したことによる不登校未然防止に向けた教育データの活用方法について検証を行う。